

東北関東大震災によせて

2011年3月11日に発生した近代日本史上最大の東北関東大震災。この国難にあたって一言をいただきました。

村越 真

この原稿を書いている時点で、震災から一週間が経ちました。依然、テレビからは、被災地の困難な状況や緊迫した原発対応のニュースが常時流れてきます。死亡した方の数も日に日に増えていくのを見るにつけ、心が痛みます。地震で被災した、あるいは関連の様々な事象で困難な状況にある皆様には心よりお見舞い申し上げます。また不幸にして犠牲になられた方には謹んで哀悼の意を表します。

ライフラインの復旧が少しづつ進んでいます。まだ復興の兆しは見えません。災害を受けなかった私たちに何ができるのでしょうか？ 現地で物資が足りないことは分かっているし、防寒具やアウトドアでの生活用具など間違いなく役立つ物品を備蓄しているにもかかわらず、現地に届ける手段がない現状に、もどかしい思いをする日々でもあります。今は、現地の人の無事と安寧を祈り、わずかばかりの義援金を出すくらいしか、できることはないのかもしれない。

しかし、阪神・淡路大震災の時がそうであったように、いずれは復興とそのための支援が必要な時期が来ます。

私の元にも、世界各地のオリエンテーリングを通して友人からのメールが届いています。彼らもまた私たちの復興を祈ってくれているのです。昨日の新聞に「単なる復興ではなく、新しい日本社会の建設を」といった趣旨の論調がありました。

オリエンテーリング界もまた、苦難の時を乗り越えて活気にあふれる新たな仲間たちの和を復興していきましょう。そして、ナビゲーション、体力、緊急時に欠かせない組織力や判断力、私たちがオリエンテーリングを通して培ったものを社会に還元していきましょう。

「自分たちの力と思いを信じ、ともにがんばりましょう！」

(村越 真)

山西哲郎日本オリエンテーリング協会会長からも以下のメッセージが寄せられました(JOAのホームページではすでに紹介済み)

山西哲郎

日本オリエンテーリング協会の皆様
この度の東北関東大地震とそれに引き続く災害で、皆様、そして関係者の方々はいかなる被害を受けられたのでしょうか。心からお見舞い申し上げます。

今は、どこにいても、自分のこと、いや誰のことを思っても、心痛み、悲しみに沈んでしまいます。また、地震以後の日々もますます被害状況が明確になり、日々の生活に困難なことが多大になっています。このような思いは、スポーツの特性である広がりや共有を楽しむ、友情を深めてきたオリエンテーリングの仲間が全国規模の活動をしているだけに、なおさら強く感じます。

そこで、本協会の会員の皆様とともに、互いに連絡をとり、被災や本人・家族や地域の方々の状況を知り合い、共に相互扶助をしていかななくてはなりません。大会や会議等が次々と延期や中止されることになっています。しかし、集まりができなくても、いろいろな方法でこれらの情報を伝え、集めて何らかの対策を創っていかななくてはなりません。それがスポーツとしてオリエンテーリング協会にできることだと思います。そして、これらをもとに被災地や被災者に対して協会は何をしなくてはならないのかを検討をしていかななくてはなりません。

阪神淡路大震災の時は、私もスポーツやランニング関係者で物資や募金を集め、現地で物心の支援や運動によるストレス発散のイベントをやったことを思い出しています。今回も、落ち着きが出てくれば皆様と共にいろいろな企画をして、被災地で活動をしたいと思います。

ともかく、互いに心を触れ合いながら、この厳しい困難な時から希望のある生活の再生を目指していきましょう。皆様からの情報や意見や提案をお待ちしています。

2011年3月16日
JOA 会長 山西哲郎

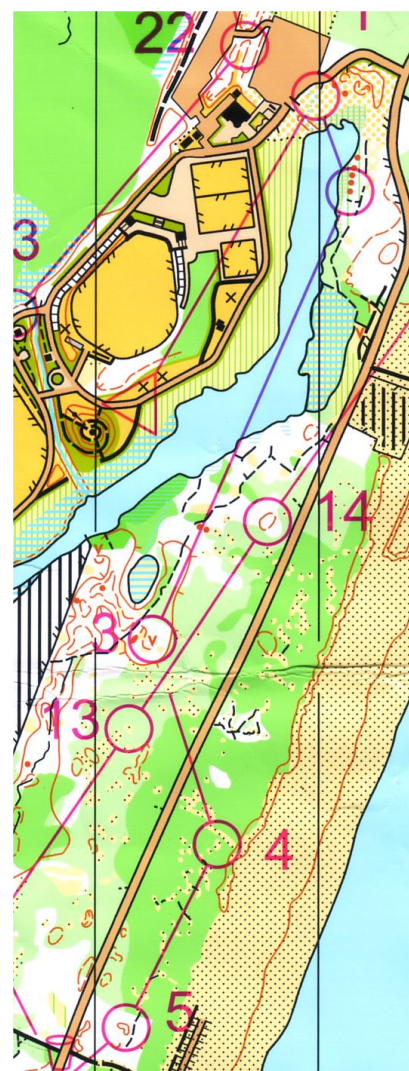
また、ご自身も阪神・淡路大震災の時には被災された尾上俊雄さんから以下のメッセージをいただきました。

尾上俊雄

このたびの東北関東大震災に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。阪神淡路大震災のときもそうでしたが、何事も前向きに考えることが大事です。オリエンテーリングはその一つのよりどころでした。各地でオリエンティアの仲間が待っています。

早く元気な姿を見せてほしいと願っています。

尾上俊雄(OLP 兵庫)



2004年に開催された岩沼大会の地図。
2011年3月11日、このテレビは、東北関東大震災の津波の下に沈んでしまった。